

テレビドラマの内容分析・序説—TBSドラマ『Summer Snow』
の内容分析を例題として

Content Analysis of the Televised Drama.

佐藤 正晴

SATO, Masaharu

The purpose of this study was to propose a method of content analysis. A televised drama, TBS drama 'Summer Snow' was analyzed, and summarized. The content analysis was done in the following manner: First, the development of the drama was analyzed and then segmented into units. Second, the units were categorized into three negative stages and two positive stages in terms of the characters' mental state. It was found that this method of content analysis was informative for identifying the segments of problem.

はじめに (問題と設定)

テレビドラマには、ホームドラマ・刑事もの・家族もの・学園もの・時代劇・アニメといういくつかにわたるジャンル分けがあるが、いずれも広くそして深く視聴者の「心」に影響を及ぼすものである。

その中でホームドラマは「家族」を取り上げたものであるということは、容易に察しがつくが、「家族」という言葉や概念が下火になったと思われる昨今でも、大家族から核家族、欠損家族、疑似家族と形態を変えた家族をテーマにした一群のテレビドラマが現れ、人気を博している。そのうち疑似家族をテーマにしたものに特に顕著であるが、従来の伝統的なホームドラマとは違い、関係がタテから次第にヨコのつながりに変わっていくという変化を捉えたドラマが増えてきている。年齢の近い何人かの若者が従来の家族とは違った共同体をさがすというテーマである。そして血はつながった兄弟を登場させてはいるが、家族関係の軸を親子ではなく兄弟姉妹に置いているという点では新しいヨコの関係を探る姿を描く試みといえる。若者たちが、友情とか恋愛感情とは別に、一種の家族愛に似た連帯意識を同世代で持ちはじめたことを示しているのかもしれない。では一体、疑似家族を中心テーマとして扱ったドラマは、どのような特質を持ち、なぜ視聴者たちに受け入れられたのだろうか。

本稿では、こうした問題に答えるべく、TBSテレビ放映のドラマ『Summer S

now』を題材として、マスコミ研究における内容分析に基づくドラマ批評の実際的な手順を、順を追って概観し、その方法と意義について解説することを第一の目的とする。⁽¹⁾ 『Summer Snow』を選択した理由は、2000年7月から9月のクールに放映された連続ドラマのなかでトップクラスの視聴率を獲得したという点と比較的疑似家族が明確に取り上げられていたという点にあるにすぎず、そのほかには特段これといった理由はない。

ここで問題になるのは、内容分析の方法である。テレビ番組の内容分析では、研究目的に応じて個別番組、シリーズ番組、一定のジャンルに属する番組群、一定期間の番組群などが分析対象となり、量的または質的な実証的分析、あるいは解釈的分析を施すといったいくつかのやり方がある。

本研究では、浜田・波多野（1964）、小川（1999）による実証的質的内容分析に着目する。分析材料は浜田・波多野は台本、小川は放送された映像であるがドラマの構成に沿った進展の分析と、その分析単位一つ一つを登場人物の心理状態の観点からコーディングしていくやり方はいずれにも共通している。さらに、このやり方は、今後本研究がドラマ特有の要素を取り入れた受け手の反応へと研究を発展させる際にその結果と照応するに相応しい内容分析であると考えられる。

1 構造分析方法の概略（先行研究について）

構造分析方法の先行研究状況として、阿部孝太郎（1997）「テレビドラマの構造分析・序説—その方法と意義を中心に」『マス・コミュニケーション研究』54号と高田明典（1998年2月）「アニメーション構造分析方法論序説—『新世紀エヴァンゲリオン』の構造分析を例題として」『ポップカルチャークリニク第0号』—エヴァの遺せしもの—青弓社が詳しい。

構造主義は、文化人類学の分野で、それまで未開人の幼稚な空想の産物にすぎないと思われていた神話を科学的に分析し、そこに一定の法則＝「構造」があることを発見した。構造主義の確立者であるレヴィ＝ストロースの神話分析は、構造分析の「お手本」とされているものであるが、歴史をもつ（歴史的発展のある）、いわゆる構造を持たない「熱い社会」には適用できないと主張している上、その「具体的な作業内容」に関して詳述されている書籍は少ないのが現状である。構造分析において「レヴィ＝ストロースの分析」のやり方に倣うと以下のような手順を踏襲する必要があるという。⁽²⁾

- (1) 複数の神話から典型構造を抽出する。
- (2) それらの典型構造から「神話素」を抽出する。
- (3) 神話素と神話素のあいだの関係を明らかにする。

(4) 対立関係を中心にして、神話素相互の間にある関係性を明らかにする。

(5) 関係性を中心にして、神話のもつ深層構造を吟味する。⁽³⁾

しかし、レヴィ＝ストロース自身の主張を鵜呑みにしても、具体的な作業は明らかにならない。独自の方法を模索せねばならない。マスコミ研究における一つの典型的な分析例としては、ラドウェイの『恋愛小説（ロマンス）を読む』があり、多くの著作・論文に利用されているという。彼女の構造分析は、大きく分けて、プロップの手法に則った時間論的な構造の抽出と、主としてレヴィ＝ストロースの手法に則った空間論的な人物配置図の二つから成っていて、他の多くの分析者もこのいずれかに従っており、汎用性が高いという。⁽⁴⁾

次に、グレマスの行為項分析の手法に基づいて、作中の登場人物などを6つの「行為項」と呼ばれる要素に分類する。⁽⁵⁾ その6つとは、①主体者、②対象、③補助者、④反対者、⑤受惠者、⑥恵与者である。しかし、テレビドラマにおいては、⑤と⑥の「受惠者—恵与者」という要素は特定できない場合が多い。

高田が指摘するように、新たな分析対象となるテキストに対するモデルを適用し、それでうまくいかなければ、そのモデルの調整が必要となり、分析の作業は「行きつもどりつ」の過程となるのであろう。⁽⁶⁾

2 ドラマの内容分析

1 進展の分析

(1) 最終話のあらすじ

第1話以来、夏生は、事故で他界した両親に代わって家業の自転車店を営みながら、耳の悪い弟・純と、妹の知佳の面倒を見ていた。ある時夏生は、純のことを振ったOLと勘違いして、信用金庫の新人・ユキを非難してしまう。

ユキと親しくなった夏生は、彼女をスキューバーダイビングに誘う。しかし、実はユキには、心臓の持病があった。同じころ、知佳が幼なじみの弘人の子を妊娠。最初は激怒した夏生だったが、産みたいという知佳を応援することに。

優しく、暖かい夏生に引かれていくユキ。そんな彼女に、夏生は真珠のネックレスをプレゼントする。しかし、ユキの父親で、少年課の刑事をしている正吾は、病気のことが気掛かりで、ふたりの交際を認めることが出来ないでいた。

ユキの病気のことを知り、一度は別れる決意をした夏生だったが、それでも彼女と離れることが出来ず、そばにいたい、と告げる。そんな折、ユキは、心臓病を患う少女・ゆかり

にアメリカでの移植手術の話譲ってしまう。

日に日に病気が悪化するユキは、ついに入院することに。その前日、篠田家に泊りに行ったユキは、初めて不安な胸のうちの夏生に告白する。夏生は、ユキを救うために、自分は身を引き、ユキに思いを寄せる医師・青児に全て任せようとするが。(第10話まで)

空港で発作を起こしたユキが病院に運び込まれる。ユキが倒れたことを知り、病院へ駆けつけた夏生に対し、正吾はちぎれた真珠のネックレスを見せ、無理に2人を引き離したことを謝る。しかし、青児は夏生に、出発直前にユキの携帯に電話したことを責める。家に戻った夏生は、あふれる涙を止めることが出来ない。弘人や純、知佳に励まされ、みんなに甘えることにした夏生は、店を任せてユキに付き添うために病院へ。一方、ユキには心臓のドナーが現れ、緊急手術が決まる。夏生はユキに修理したネックレスを渡し、手術をがんばるよう励ます。

(2) 分析単位の決定

本来、テレビの内容分析は、言語的及び非言語的シンボルの分析をおこなうべきである。ここでは、テレビの内容分析としては必ずしも充分ではないと思うが、録画映像に基づいて、言語的シンボル(登場人物の発言内容)を主として分析した。非言語的シンボルについては、言語的シンボルを分析する上で切り離せないものや話の内容上無視できないと思われるものを適宜判断し、分析単位に加えた。

分析単位は、原則として1人の発言または内言(態度・表現など)を一単位とした。さらに、明らかにある特定の人物に対して同じモチーフについて複数の人間が会話を続ける場合は、心理学的に一つの意味内容をもつと考え、対話のまとまりを一単位とした。また、時間にして長い(1分以上)1人の一連の発言の中で、話の中身が変わったり、それに伴って心理状態が変化したりした場合はいくつかの単位に分割した。結果として全体が97の分析単位に分けられた。このようにして設定した分析単位によって、ドラマの物語の進展の分析を試みた。

(3) 分析単位の内容

1. 青児に付き添われ、救急車で運ばれるユキ。
2. 夏生の名前を虫の息ながら呼ぶ、ユキ。手にはしっかりゴールドのネックレス。
3. 篠田サイクルでは、何も知らず、新しい自転車の組み立ての仕方を弘人に教える夏生。
4. 「ユキさん行っちゃいましたね」とユキを話題にし、夏生を励ます弘人。
5. 「自分のことを心配しろ」と弘人をたしなめる夏生。電話が鳴る。
6. ユキの入院を知らされ、病院へ向かう夏生。

7. 道中、知佳と出くわすが、振り切り病院へ急ぐ夏生。
8. 集中治療室の前でユキを案ずる正吾。
9. 病院へ到着した夏生にユキのゴールドのネックレスを手渡す正吾。
10. ユキが救急車の中で自分の名を呼び続けていたことを知る夏生。
11. ユキと夏生を切り裂いたことを悔いる正吾。
12. 看護婦が院長室へ来るように呼びに来る。
13. 院長室で、ユキが危険を脱したことを聞きホッとする正吾。
14. ユキへの心臓移植手術を希望する院長に、愕然とする正吾。
15. 集中治療室の前で案ずる夏生の前に青児が通りかかる。
16. 青児、ユキを明経大病院へ移すこと、安否は適合するドナーが現れるかどうかで決まるということを話す。
17. ユキはもって一ヶ月と聞かされ、夏生呆然。
18. 青児、出発間際にユキの携帯に電話したのか尋ねる。
19. 「手術がんばれ、と言いたかった」と夏生答える。
20. 「ユキは電話が鳴り、戻ろうとして発作が起きた。中途半端なことするな」と青児激怒。
21. 篠田サイクルに戻る夏生、家族にはユキのことを伝えない。夏生だけ遅い夕食。
22. 突然泣き出す夏生に驚く家族。ユキが空港で発作を起こしたことを家族に話す夏生。
23. ユキにずっとついていてあげるよう夏生に話す、弘人、純、知佳。
24. 「兄貴の力になりたい」という家族に、「別れるなんて間違いだった、ユキとずっと一緒にいる」と話す夏生。
25. チェーンの切れたネックレスを元通りに直しに行く夏生。
26. 知佳に電話し、「ユキの見舞いに行くという」夏生。
27. 車で病院へ向かう夏生。車道で自転車練習中の子どもに話しかける。
28. 「車に気をつけろ」と子どもに話し、別れる夏生。
29. 信号無視した子どもにバイクが突っ込む。助けに飛び込む夏生。
30. 集中治療室、目を開けるユキ。青児、ユキのもとへ。
31. いつ夏生に会えるか、青児に尋ねるユキ。
32. 「面会は当分無理」と話す青児。心臓を移植してくれるドナーが現れたことを知るユキ。
33. 立ち去る青児。入れ替わりでユキの下に現れた夏生。
34. 来るのが遅れたことをユキに詫び、バイクとぶつかった傷を見せる夏生。
35. チェーンを修理したネックレスをユキに握らせ、「手術がんばれ」と話す夏生。

36. 「生きていたい」と話すユキ。ユキの頭を撫でてあげる夏生。
37. 手術室。手術室前では、正吾と美也子が心配そうに待つ。傍らに夏生。
38. 篠田家食卓。夏生のいない食卓。
39. 弘人、「高校やめて、この店をやる」と純と知佳に話す。反対する純、知佳。
40. 弘人、「夜間高校に移る、すべてを自分の親父に話してくる。もう夏生さんに頼ったり逃げたりしない」と話す。
41. 手術室。ユキ手術中。
42. 回想シーン。海中。「夏に深い海の底に降る真っ白な雪をいつか見よう」と夏生の声。
43. 手術終了。手術室から出てくる医師の中に青児。
44. 手術の成功を話す青児。礼を言う正吾と美也子。
45. 立ち去る青児。傍らに笑顔の夏生。
46. 病室。ユキの見舞いに来た正吾と美也子。「順調で生まれ変わったようだ」と話すユキ。
47. 夏生のことを尋ねるユキに渋い症状の正吾と美也子。夏生との再会を待ちわびるユキ。
48. 病室でアルバムを見るユキ。病室に夏生。手術中、手を握っていてくれた礼を言うユキ。
49. 検温のため、看護婦入室。体温計を渡して一時退室。ベットの下に隠れる夏生。
50. ベンチに座る正吾と美也子。プロポーズを察する美也子、見抜かれる正吾。
51. 末次家居間。弘人、知佳と結婚し子どもを育てると父親に話す。父親激怒。
52. 「今が俺の頑張り時」と話す弘人に父親、渋々納得。退室。
53. 母親に詫げる弘人に母親涙。「いつか親父にわかってもらえるよう頑張る」と弘人。
54. 産婦人科診察室。映し出される子どもの姿を二人で見守る弘人と知佳。
55. 篠田家。部屋で深夜、勉強に励む純。
56. 病室。眠るユキの傍らに夏生。
57. 自転車屋。弘人を手伝う純。傍らで微笑む夏生。弘人を呼ぶ知佳。篠田家の食事。
58. 病院庭。弘人の自立を嬉しそうに話す夏生。正吾と美也子の結婚を嬉しそうに話すユキ。
59. ユキにかけよるユカリ。夏生とユキの似顔絵を手渡すユカリ。傍らに夏生はいない。
60. 病院廊下。ユキの乗る車椅子を押す青児。「夏の雪って何?」と尋ねる青児。
61. 「3000メートルの海の底に降るマリンスノーのこと」と答えるユキ。
62. 夏生と一緒に見る約束について話すユキに、「君を助けられなかった」と青児謝る。
63. ドナーが見つかり、ユキがこうしていられるのは奇跡と話す青児。
64. 病室。退院できることを嬉しそうに夏生に話すユキ。アルバムいっぱい夏生と思い出

- を作りたいと話すユキ。
65. 「今までの思い出で十分」と話す夏生。「出会えてよかった」とキスをする二人。
 66. また海に潜ろうと話すユキ。複雑な表情で見守る夏生。「一緒にいよう」と声のみで消えている夏生。
 67. 退院して篠田サイクルへ訪れたユキ。弘人の後姿を見て夏生と呼びかけてしまうユキ。
 68. 弘人、知佳、純、ユキとの再会を喜ぶ。夏生はどこか探すユキ。
 69. 夏生が一ヶ月前に死んだことを涙ながらに話す知佳と純。驚くユキ。
 70. 夏生の遺影。
 71. 篠田家。遺影を持ちながら夏生がバイクにひかれて死んだという事情を涙ながらに話す知佳と純。
 72. 元気になるまでユキに知らせないようにしていたと話し、知佳涙。
 73. 信じようとしないうキ。「夏生に会わせて」とユキ号泣。「お兄ちゃんはいない」と知佳号泣。
 74. 「お兄ちゃんはいない、なんて聞きたくない」とユキ号泣。
 75. 「夏生がいなければ死んだ方がよかった」とユキ。
 76. 「そんなこといったら夏生が悲しがる」と弘人。「兄貴は最後までユキさんを心配していた」と純。
 77. 「お兄ちゃんは、ユキさんや病気の人たちに長く生きてほしいと思っていた」と知佳。
 78. 自分のドナーが夏生では？と悟るユキ。
 79. 病院の廊下。青児に「私のドナーは誰？」と尋ねるユキ。
 80. 「話せない」と立ち去ろうとする青児に「夏生なんでしょ」と言い放つユキ。
 81. ドナーカードを持っていた夏生が脳死状態で家族の同意を経て私に移植されたはずだとユキ。
 82. 「何いってるんだ」と青児。「だから奇跡と言ったのね」と涙ながらにユキ。
 83. ネックレスごしに夏生からもらった心臓をさすユキ。
 84. 一人街中を歩くユキ。夏生からの最後の着信履歴を確認する。返信する。使われていないことを知る。
 85. 駅で切符を買うユキ。ホームにたたずむユキ。電車内でアルバムを取り出し、見るユキ。
 86. 「こんなきれいな海、絶対に見に行こう」という夏生のメモを見つける。微笑むユキ。
 87. 回想。子どもの自転車にぶつかったユキに夏生が立ち寄る。
 88. 公園でのデート。スキューバー、ドライブの思い出。二人で潜った海。水族館でのデート。

89. 海へ向かう電車。
90. 車窓を見るユキ。外は海。「一緒にいるよ」という夏生の言葉を思い出し、ユキ涙。
91. 夏生からもらった心臓をさするユキ。
92. 一年後、明るく海へ走るユキ。浜辺には知佳、純、弘人。
93. 弘人と知佳の子供、「はる」にユキが挨拶。
94. 純とユキ、海に潜る準備。
95. 大学のダイビング同好会に入った純をうらやましがる弘人をたしなめる知佳。それを見て微笑むユキ。
96. 海中。サマースノーを写真に撮るユキ。「真っ白な雪がきれいだと」夏生の声。
97. 夏生とユキの海でのスナップ。

3 登場人物の心理状態の分析

(1) 内容分析の視点

2で分析された97の各分析単位を、いくつかの視点からカテゴリライズして、数量的にとらえようと試みた。このドラマは、先に述べたとおり、主として、録画映像に基づいて、登場人物の発言内容を分析したが、2の分析単位に基づいて、ここでは、まずこのドラマのテーマ（恋愛・兄弟関係のあり方）に関して、登場人物（行為者）が、どのような行為（行為の種類）を、どのような心理状態でおこなうか（行為者の心理状態）を、問題にした。つぎに、特に恋愛・兄弟関係に注目しながら、登場人物間の人間関係を、分析した。登場人物（行為者）の心理状態については、登場人物自身の主観的な枠組みから見て、不快と考えられる場合（非難、中傷、抗議、怒り、緊張、葛藤、不安、不満、など）、これをnegativeとカテゴリライズし、快と考えられる場合（緊張解消、安定、満足、理解、愛情、愉快、目標志向、使命感、了解、受容など）、これをpositiveとカテゴリライズした。さらに、negativeのカテゴリーには3段階（-3、-2、-1）、positiveのカテゴリーに2段階（+1、+2）のサブカテゴリーを設けた。前者を3段階に、後者を2段階にしたのは、negativeな心理状態が、このドラマの展開の中心となっており、比較的是っきりと段階づけられるからである。また、ドラマのテーマ（恋愛・兄弟関係のあり方）に直接関係のない単位は分析から除外した（カテゴリライズしなかった）。除外したものは次のとおりである。1（救急車で運ばれる風景）、9（病院へ到着した夏生にユキのゴールドのネックレスを手渡す場面）、12（看護婦が院長室へ来るように呼びに来る場面）、15（集中治療室の前で案ずる夏生の前に青児が移動）、30（集中治療室、目を開けるユキ。青児、ユキのもとへ移動）、33（立ち去る青児。入れ替わりでユキの下に現れた夏生）、38（篠田家食卓の

場面), 41 (手術室。ユキ手術中の場面), 43 (手術終了。手術室から出てくる医師の中に青児), 59 (ユキにかけよるユカリ。夏生とユキの似顔絵を手渡す場面), 70 (夏生の遺影), 87 (回想。子どもの自転車にぶつかったユキに夏生が立ち寄る場面), 88 (公園でのデート。スキューバー、ドライブの思い出。二人で潜った海。水族館でのデート), 89 (海へ向かう電車), 92 (一年後、明るく海へ走るユキの場面), 94 (純とユキが海に潜る準備), 97 (夏生とユキの海でのスナップ)。以上、カテゴライズから除いたものは、分析単位97のうち、17である。

1表 行為者の心理状態

行為者	行為の種類	Positive + 2	Positive + 1	Negative - 1	Negative - 2	Negative - 3
夏生	ユキを思う	25, 35, 36, 42, 45, 65, 96,	10, 19, 34, 49, 56,		65, 66,	6, 7, 17, 24, 37,
	長男の立場 を自覚する	3, 5,				
	家族を思う	26, 57, 58,				21, 22,
	子どもを気遣う	29,	27, 28,			
ユキ	夏生を思う	36, 47, 64, 65, 66, 67, 96,	36, 48, 61,	85, 86,	78, 79, 81, 84, 91,	2, 69, 73, 74, 75, 80 82, 83, 90,
	回復を喜ぶ 正吾と美也 子を思う	46, 58,				
	弘人・知佳(は る)・純を思う	68, 93, 95,				
青児	ユキを思う	44,	32,	16, 63,	60, 62,	80, 82,
	夏生に不満 を感じる			18,		20,

正吾	ユキを思う	13, 44,			8,	11, 14, 37, 47,
	美也子を思う	50,				
知佳	夏生を思う	23,				69, 71, 73, 77,
	弘人を思う	54, 95,			39,	
	ユキを思う					72,
純	夏生を思う	23,			39,	69, 71,
	弘人を思う					
	勉強に励む	55,				
	ユキを思う					76,
弘人	夏生を思う	23, 40,	4,			
	知佳を思う	39, 40, 51, 54,				
	純を思う	39, 57,				
	父を思う	53,				
	ユキを思う					76,
弘人の父	弘人を思う		52,			51,
弘人の母	弘人を思う	53,				
美也子	ユキを思う	44,				37, 47,
	正吾を思う	50,				

(2) コーディングの基準

ここでは、ドラマのテーマに鑑みて、恋人同士、子ども同士、親子、大人子ども、大人同士という人間関係をカテゴリーでおさえ、その関係において、登場人物が、がっかりする・緊張する・けんかするなどの場合、これをnegativeとカテゴライズし、笑う・なごやかに話す・楽しむなどの場合、これをpositiveとカテゴライズした。

-3から+2まで0（ゼロ）も含めた6段階へのコーディングは、登場人物の主観的な枠組みから見た心理状態を筆者が可能な限り絶対的に、かつドラマ全体の流れを考慮して相対的に判断した。-1は不満や怒りの内言、軽い心配など、-2は不満や怒り、不安、悲しみなど、-3は非難、中傷、激しい不安、悲痛な心境など、+1は比較的シリアスな状況の中で一時的な解決として、緊張解消、満足、理解、愛情、愉快、使命感などが発生しているもの、またはそのような心理状態が相手がnegativeであることで、相手と共有できていない場合、+2は和んだ状況の中で緊張解消、満足、理解、愛情、愉快、使命感などを自分も相手も共有しているもの、である。

2表 画面にあらわれた人間関係

		Positive + 2	Positive + 1	Negative - 1	Negative - 2	Negative - 3
	夏生-ユキ	25, 35, 36, 42, 45, 47, 64, 65, 66, 67, 96,	10, 19, 31, 34, 48, 49, 56, 61,	85, 86,	65, 66, 78, 79, 81, 84, 91,	2, 6, 7, 17, 24, 37, 69, 73, 74, 75, 80, 82, 83, 90,
	正吾と美也子	50,				
	弘人と知佳	39, 40, 51, 54, 95,			39,	
子ども同士	夏生-知佳・ 純	3, 5, 23, 26, 57, 58,				21, 22, 69, 71, 73, 77,
	夏生-弘人	23, 40,	4,		39,	
	弘人-純	39, 57,				72, 76,
	ユキ-弘人・ 知佳(はる)・ 純	68, 93, 95,				
親-子ども	正吾-ユキ	13, 44, 58,			8,	11, 14, 37, 47,
	弘人-両親	53,	52,			51,
大人-子ども	夏生-子ども	29,	27, 28,	16, 63,		80, 82,
	青児-ユキ	44,	32,		60, 62,	37, 47,
	美也子-ユ キ	44,				
大人同士	夏生-青児			18,		20,
	正吾-美也 子	50,				

(3) 内容分析からみたドラマの特徴

1表から明らかになることは、行為の種類は、行為の対象に対する肯定的な態度が前提とされているので、肯定的な行為類型が多く、行為者の心理状態は、ドラマの展開からいって、negativeなものが多い。たとえば、夏生がいなくて淋しいという時には、“夏生を

思う”という行為類型—夏生に対する愛情の発現という意味で、夏生に対する肯定的な行為だと考えられる—に分けられるとともに、心理状態としてはnegativeと分類される。しかも、negativeのカテゴリーで、-2, -3のカテゴリーに属する単位が多くなっている。一方、positiveに属する単位には、多く+2のカテゴリーに属しているのだが、中盤までに集中しており、ドラマの主題との関係は薄い。

2表からは、次のことが明らかになる。即ち、直接テーマとかかわる夏生とユキ、夏生と知佳・純の関係は、positiveな心理状態を基調としていながら結末部分でnegativeな心理状態に急展開し、positiveになり終わる、というテーマへの伏線として、夏生の死を知る前のユキと夏生の関係は、positiveな関係としてあらわれてきている。

このドラマの展開が、ユキが倒れる→夏生の死という事件が起こる→その事件によってユキがnegativeになる→事件を乗り越え立ち直るユキ、という展開であり、negativeな心理状態、人間関係の表現が、基調となっていることが、以上の分析からも明らかである。

4 物語の構造

物語の進展にそって、97の分析単位をカテゴライズし、物語全体の流れを明らかにしようとして試みた。97の分析単位のまとまりは以下の22通りである。

1. ユキが発作を起こし救急車で運ばれる。ユキとの別れを誓った夏生にはユキの病状を知る余地も無い。そこに一本の電話が。1, 2, 3⁺², 4⁺¹, 5⁺²,
2. 病院へ急ぐ夏生。集中治療室の前でユキの身を案ずる夏生。夏生とユキを別れさせたことを悔いる正吾。心臓移植手術が必要なユキは、適合するドナーが現れなければ余命いくばくもないという。恋敵の青児から厳しい言葉が。6⁻³, 7⁻³, 8⁻², 9, 10⁺¹, 11⁻³, 12, 13⁺², 14⁻³, 15, 16⁻¹, 17⁻³, 18⁻¹, 19⁺¹, 20⁻³,
3. ユキとの別れを悔いた夏生は、ユキへの思いと献身的な介護を家族に誓う。病院へ向かう途中、自転車に乗る少年と知り合う。その少年がバイクにはねられそうになったのを見た夏生は、自分の身を省みず助けに飛び込む。21⁻³, 22⁻³, 23⁺², 24⁻³, 25⁺², 26⁺², 27⁺¹, 28⁺¹, 29⁺²,
4. 集中治療室。夏生に会いたがるユキ。青児は、当分面会ができないことと心臓移植のドナーが見つかったことをユキに知らせる。30, 31⁺¹, 32⁺¹,
5. 青児と入れ替わりで集中治療室に夏生。会いに来るのが遅れたのを詫びながら、バイクとぶつかった傷をユキに見せる。「生きていたい」と言うユキに「がんばれ」と励ます夏生。33, 34⁺¹, 35⁺², 36⁺²,
6. ユキの手術が始まる。心配しながら待つ正吾、美也子、夏生。37⁻³,
7. 篠田家の食卓では、弘人が夜間高校へ移り、昼間は自転車屋で働くこと、知佳と生

- まれてくる子どものために自立することを、自分の両親に話してくると話す。3 8,
3 9⁻², 4 0⁺²,
8. 手術中も夏生の声が頭を離れないユキ。手術が無事に終わったことを正吾と美也子に伝える青児。傍らで胸を撫で下ろす夏生。安堵の空気に包まれる。4 1, 4 2⁺²,
4 3, 4 4⁺², 4 5⁺²,
9. 病室では順調に回復していくユキを正吾と美也子が見舞う。しかし夏生の話題には渋い症状。ユキは夏生に手術中に手を握ってくれていたことの礼を言う。4 6⁺²,
4 7⁻³, 4 8⁺¹, 4 9⁺¹,
- 1 0. 正吾と美也子が結婚を約束する。5 0⁺²,
- 1 1. 弘人は実家で両親に知佳と一緒に、子どもを育てていくことを宣言。激怒するも父親も渋々賛成する。1日も早く自立することを母親に誓う。5 1⁻³, 5 2⁺¹, 5
3⁺²,
- 1 2. 出産を待つ弘人と知佳。勉強に励む純。病気と闘うユキとそれを見守る夏生。篠田家の家族のそれぞれの生活が再開した。5 4⁺², 5 5⁺², 5 6⁺¹, 5 7⁺²,
- 1 3. 病院庭。ユキと夏生に駆け寄るユカリ。ユカリには夏生が見えない。5 8⁺², 5 9,
- 1 4. 病院廊下。ユキに力になれなかったと詫げる青児。「ドナーが見つかったのは奇跡」とついユキに口走ってしまう。6 0⁻², 6 1⁺¹, 6 2⁻², 6 3⁻¹,
- 1 5. 病室。ユキの退院が決まり、二人の愛を確認しあう夏生とユキ。はしゃぐユキを見ても、これからの思い出作りには、なぜか消極的な夏生。6 4⁺², 6 5⁺², 6 6⁺²,
- 1 6. 退院して篠田サイクルを訪れるユキ。夏生の姿はない。夏生が死んだことを知佳と純から聞き驚く。6 7⁺², 6 8⁺², 6 9⁻³,
- 1 7. 夏生が死んだ事情を聞いたユキは、号泣。「自分も死ねばよかった」とまで考える。兄のためにも生きてほしいと知佳と純も号泣。ユキは自分のドナーが夏生ではないかと悟る。7 0, 7 1⁻³, 7 2⁻³, 7 3⁻³, 7 4⁻³, 7 5⁻³, 7 6⁻³, 7 7⁻³, 7 8⁻²,
- 1 8. 青児に「自分のドナーは、夏生ではないか」と詰め寄るユキ。ユキはすべてを知ってしまい涙。7 9⁻², 8 0⁻³, 8 1⁻², 8 2⁻³, 8 3⁻³,
- 1 9. 夏生の携帯番号、アルバム、メモから夏生の思い出を辿るユキ。8 4⁻², 8 5⁻¹, 8 6⁻¹,
- 2 0. 夏生との出会いからを回想するユキ。8 7, 8 8, 8 9,
- 2 1. 海へ向かう電車の中、夏生の言葉を思い出すと同時に、自分は夏生の心臓で生きていることを実感し、涙するユキ。8 9, 9 0⁻³, 9 1⁻¹,
- 2 2. 一年後、海。ユキ、純、弘人、知佳、はるが再会。海中でサマースノーを写真におさめるユキ。夏生の声が聞こえた。9 2, 9 3⁺², 9 4, 9 5⁺², 9 6⁺², 9 7,

おわりに (今後の課題)

本稿では、テレビドラマの内容分析について述べてきたが、多くの課題を残してしまっている。

まず第一に、本稿を受け手の反応と照応するに相応しい内容分析にまで高める必要がある。アンケートを通じた受け手による視聴前後の感想を内容分析にフィードバックすることから受け手の反応を誘発した分析単位の特定を試み、その上で考察を加えるべきということである。これは、受け手による視聴前後の感想というのが、率直かつ代表性が高いドラマ評価であり、ドラマがどのように受け手の心を捉えたのか、あるいは捉えられなかったのか、ということを確認される情報であるということでもある。

第二に、本稿では、2000年7月から9月のクールに放映された連続ドラマのなかでのトップクラスの視聴率を獲得したという点と比較的疑似家族が明確に取り上げられていたという点から『Summer Snow』を題材としたが、これが、別のドラマである場合、同じ方法を用いることができるかどうか。今後の課題と言えよう。

注

- (1) 例題として取り上げた『Summer Snow』については、7月7日から金曜日午後9時から9時54分まで、全11回の放送がTBS系で放送された。脚本は小松江里子、演出は松原浩・遠藤環・平野俊一である。主な出演者は堂本剛、広末涼子、池脇千鶴、小栗旬、中村俊介、伊藤高史、国仲涼子、原日出子、角野卓造ほかである。堂本剛主演の青春3部作（『若葉のころ』'96年4月、『青の時代』'98年7月に次ぐ）第3弾にあたる作品であるという。テーマは愛ということである。初回からの平均視聴率はビデオリサーチ発表<関東地区>テレビガイド誌調べを筆者が平均したところ、18,2%であり、“低迷”といわれていた7月クールの連続ドラマの中では、視聴率的にかろうじてではあるが、合格点に達した数少ないドラマの一つである。本稿で内容分析を試みた最終回（9月15日）の視聴率は、18,9%であり、同じく9月11日～9月17日に最終回を迎えたドラマの中では、『フードファイト』（日本テレビ）の21,5%に次ぎ、第2位の高視聴率に位置する。
- (2) クロード・レヴィ=ストロース、荒川ほか訳（1972）『構造人類学』みすず書房、第11章「神話の構造」。
- (3) 高田明典（1995）『アニメの醒めない魔法』PHP研究所、175頁。
- (4) Seiter et al Ed. 1989 Remote Control - Television, audiences and

Cultural Power, Routledge. Real, M 1989, Super Media, Sage.
Fiske, J 1990, Introduction to Communication Studies (2nd edition), Routledge.

- (5) J・B・ファージュ、加藤晴久訳（1972）『構造主義入門』大修館書店、「第3部応用 5 神話、民話、物語」、140～160頁。
- (6) 高田明典（1997）『構造主義方法論入門』夏日書房、[付録5 議論の構造分析]、32～40頁。

引用・参考文献

- 阿部孝太郎（1997）「テレビドラマの構造分析・序説—その方法と意義を中心に」『マス・コミュニケーション研究』54号
- 江口恵子・波多野詮余夫・敷地幸子・和田三郎・由良倫孝・森本義男（1960）「中学生におけるホームドラマの受容過程（1）（2）」『学習心理』336
- Fiske, J 1990, Introduction to Communication Studies (2nd edition), Routledge.
- 萩原滋（1980）「テレビの子ども番組の内容に関する証的な分析事例とその方法」『新聞学評論』29号
- 浜田恵子・波多野詮余夫（1964）「テレビ番組の内容分析」依田新編『テレビの児童に及ぼす影響』東大出版会
- 橋爪大三郎（1988）『はじめての構造主義』講談社現代新書
- 岩男壽美子（2000）『テレビドラマのメッセージ 社会心理学的分析』勁草書房
- J・B・ファージュ、加藤晴久訳（1972）『構造主義入門』大修館書店
- クロード・レヴィ＝ストロース、荒川ほか訳（1972）『構造人類学』みすず書房
- 小松克彦+オフィスK21（1999）『That's テレビドラマ90's』ダイヤモンド社
- コンタウィーサック（1996）「東京ラブストーリーから見た現実像—テレビの現実構成への再評価—」『母子家庭』17号
- 西野知成（1998）『ホームドラマよどこへ行く』学文社
- 小川有希子（1999）『「3年B組金八先生」の「質的」内容分析と受け手の反応』『マス・コミュニケーション研究』54号
- Real, M 1989, Super Media, Sage.
- Seiter et al Ed. 1989 Remote Control—Television, audiences and Cultural Power, Routledge.
- 高田明典（1998年2月）「アニメーション構造分析方法論序説—『新世紀エヴァンゲリ

オン』の構造分析を例題として」『ポップカルチャークリニック第0号』—エヴァの遺せしもの—青弓社

(1997)『構造主義方法論入門』夏目書房

(1995)『アニメの醒めない魔法』PHP研究所

『TELEPAL』(2000年7.1～)小学館

『ザテレビジョン』(2000年7.1～)角川書店

『月刊ザテレビジョン』(2000年6.27～)角川書店

『TV Bros.』(2000年6.24～)東京ニュース通信社

『TVガイド』(2000年7.1～)東京ニュース通信社

『TV LIFE』(2000年6.24～)学習研究社

『TV LIFE別冊 夏ドラマの本』(2000 SUMMER)学習研究社

『TVぴあ』(2000年6.24～)ぴあ株式会社

『TV station』(2000年6.24～)ダイヤモンド社

塩谷千恵子(1995)「テレビドラマが描く日本型家族像—1994年10月の調査から」『女性文化研究所紀要』16号

山村賢明(1971)「テレビ・ドラマ『おかあさん』の分析」『日本人の母』東洋館出版社

山下玲子(1996)「テレビが子どもの社会的行動に及ぼす影響に関する研究についての一考察—研究の概観として」『マス・コミュニケーション研究』49号

上野千鶴子(1985)『構造主義の冒険』勁草書房

[付記] 本稿は尚美学園短期大学情報コミュニケーション学科2000年度学科共同研究「2000年7月第2週首都圏地上波全TV放映内容調査」の筆者担当箇所「現代の若者とテレビドラマ」の研究の一部である。本稿作成に際し、貴重なコメント・資料をいただくなど御指導いただきました尚美学園短期大学情報コミュニケーション学科の諸先生方に心から感謝いたします。